

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎		建築学科/1年	2024/通年	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	90時間	必須	西川 覚
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける</li> <li>・日頃の習慣が自分の進路選択に与える影響が大きいことを理解する</li> <li>・その他学習状況のヒアリングや個別のアドバイスを実施する(HR的内容)</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己PRや志望動機など履歴書に必要な項目を自ら考えて表現することが出来る</li> <li>・就職活動の進め方を理解し自主的に活動することが出来る</li> <li>・物事の見方と考え方や話しを聴くことの重要性を理解して問題意識を持つことが出来る</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	人材総合サービスにて人材育成支援に従事			
時間外に必要な学修				
・良い習慣を身につけるために自分がすべきことに気付き日々行動すること(日々の振り返りと反省と反復)				
回	テーマ	内容		
1	新しい学びを効果的にする	穴吹学園での学び方について+各チューターによるHR		
2		良い習慣を身に付ける+各チューターによるHR		
3		話の聴き方+各チューターによるHR		
4		偶然がつくる人生+各チューターによるHR		
5		モノの見方①+各チューターによるHR		
6		モノの見方②+各チューターによるHR		
7	卒業後をイメージして学ぶ	就職活動の世界を知る①+各チューターによるHR		
8		就職活動の世界を知る②+各チューターによるHR		
9	文章による表現の仕方を学ぶ	履歴書の書き方と伝え方+各チューターによるHR		
10		履歴書を作成する①(左半分)+各チューターによるHR		
11		自分を知る工夫①+各チューターによるHR		
12		自分を知る工夫②+各チューターによるHR		
13		文章の書き方と構成の仕方+各チューターによるHR		
14		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文)+各チューターによるHR		
15		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文)+各チューターによるHR		
16		文章の書き方と構成の仕方(趣味特技・特記事項)+各チューターによるHR		
17	情報の集め方を学ぶ	情報収集編+各チューターによるHR		
18		興味のある仕事について調べる+各チューターによるHR		
19		興味のある仕事について調べる(志望動機を考える)+各チューターによるHR		
20		興味のある仕事について調べる(志望動機を考える)+各チューターによるHR		
21	言葉での表現の仕方を学ぶ	考え方(その1)①+各チューターによるHR		
22		考え方(その1)②+各チューターによるHR		
23		プレゼンの基本と応用+各チューターによるHR		
24		他の学生との違いをアピールする方法+各チューターによるHR		
25		企業の話しを聞こう+各チューターによるHR		
26		面接のポイントを理解する+各チューターによるHR		
27		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
28		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
29		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
30		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材		授業態度・取り組み方 提出課題評価	60% 40%	質問がある場合はメールにて受け付けます

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
計画論1		建築学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	岩竹俊範
授業の概要				
人間の基本動作から導き出される各部寸法の把握、および小規模建築から、より広範囲にわたる大規模建築の計画基礎を学び、建築、インテリアをデザインする上で必要となる事項を修得する。				
授業終了時の到達目標				
規模計画のための原単位と各建築物およびその室の計画要点を理解することができる。 ・(A評価)小テスト合計80点以上 8割以上 ・(B評価)小テスト合計70～79点 7割 ・(C評価)小テスト合計60～69点 6割 ・レポートの課題を出した場合は評価に加味する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	ure主催。設計、監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
次回授業範囲の教科書を予習する。				
回	テーマ	内容		
1	第1章 計画と設計	授業内容、評価方法の説明。なぜ建築計画を学ぶか		
2	第2章 居住施設の計画	住様式と住宅の変化、戸建住宅		
3		戸建住宅、集合住宅		
4		集合住宅		
5		細部計画		
6	第3章 学校教育施設の計画	幼稚園(保育園)		
7		小学校・中学校		
8	第4章 社会教育施設の計画	生活圏とコミュニティ施設、図書館		
9		美術館、コミュニティセンター・公民館		
10	第5章 医療施設・福祉施設の計画	高齢社会と建築計画、病院		
11		病院、高齢者施設		
12	第6章 商業施設の計画	規模計画と経済効率、事務所ビル		
13		劇場・音楽ホール、百貨店・スーパーマーケット		
14		宿泊施設(ホテル)、駐車場		
15	第7、8章 外部空間の計画 自然現象、建築、知覚	外部空間把握、外部空間の計画手法、自然現象の知覚視覚と建築、寒暑感覚と建築、聴覚と建築		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
初学者のための建築講座「建築計画」(市ヶ谷出版社)		小テスト レポート	100%	簡単な質問は授業前、後に受け付ける。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
材料学		建築学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	玉田美貴
授業の概要				
<p>建築・インテリア空間を構成しているものすべてが「インテリアエレメント」。項目ごとに、種類および分類をテキスト・写真で確認し、知識を深めていく。木質系素材・左官・タイル・ガラスなどの具体的な建築材料の性質と特徴などを項目ごとに学ぶ。また、机上のみではなく、実物に触れることにも重点を置きたい。なお知識定着のため期末試験及び期末レポートを提出させる。この授業を通して得た知識を建築設計・インテリアコーディネートPLANに反映させる。</p>				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C以上)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリア空間を構成している様々な要素と役割を理解できる</li> <li>・建築を構成する部材はどのような材料できているのか理解できる</li> </ul>				
(標準目標:B以上)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各インテリアエレメントの商品知識と専門用語を理解できる</li> <li>・建築材料の性能・特徴の理解が深まっている</li> </ul>				
(発展目標:A)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計に必要となる材料選定の基本が理解でき、PLANに反映できる</li> <li>・エレメントの知識を活かした幅広いスタイルのインテリアコーディネート・デザインができる</li> <li>・インテリア・建築に関する資格習得につなげる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		インテリアコーディネート・デザイン(戸建・集合住宅・店舗・事務所等)の実務経験		
時間外に必要な学修				
<p>各回の授業の内容をテキストで見直し、自分なりに整理する。身の回りのインテリアエレメント・インテリア材料・建築材料を意識する。また建築材料は日進月歩進んでいる。専門雑誌やwebなどの関連参考資料など情報収集することを習慣化すると共に、日頃から建築物や内装に目を向け、素材は何を使っているのか?探求する心を養う。</p>				
回	テーマ	内容		
1	インテリアエレメント	インテリアエレメントとは		
2	家具	家具の分類・名称・椅子のデザインなど		
3	内装の仕上げ材	床・壁・天井材料の種類		
4	開口部・建具	建具の種類・窓 <建具・フローリングメーカー特別講義>		
5	ウインドウトリートメント	窓装飾の機能と役割・種類・カーテンのスタイル <内装材メーカー特別講義>		
6	内装材見学	床材・壁紙・カーテン等のメーカー見学		
7	設備機器	キッチン・浴室・トイレ・洗面		
8	窓回りメーカー新作展示会見学	TOSOさま新作展示会見学		
9	照明	照明の基礎知識・照明器具・光源など		
10	照明メーカーショールーム見学	照明メーカーショールーム見学		
11	木材	木材の種類・特徴・構造など		
12	コンクリート・鋼材	コンクリートとは・性質・種類など。鋼材の種類・特徴・その他の金属		
13	和室の造作・インテリアアクセサリ	和室各部の名称など・インテリアアクセサリの種類		
14	焼成品・ガラスと石・左官材料・その他の材料	タイル・レンガ・瓦・ガラス・石・左官・その他(塗料・プラスチック等)の特徴・種類		
15	まとめ試験	復習まとめ試験及び私の好きな材料についてレポート提出		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
世界で一番やさしいインテリア やさしい建築材料 プリント		各授業レポート 期末レポート 授業への取り組み	50% 40% 10%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境計画論		建築学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	杉原 祥太
授業の概要				
高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するための福祉、建築・インテリアなどに関する知識を体系的に身につける				
授業終了時の到達目標				
高齢者や障害者の具体的事例に対して適切に対処できる。住環境整備に関する制度や設計指針の活用法、また福祉用具、介護用品から家具の選択と利用方法を理解・習得し、適切なアドバイスができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設での介護・福祉に関する全般的な実務経験		
時間外に必要な学修				
生活している中にあるバリアを発見する。高齢者や障害者と共生するとはどういうことを考えてみる。				
回	テーマ	内 容		
1～3	第一章 暮らしやすい生活環境を目指して	①授業概要、1節 少子高齢社会と共生社会への道 ②2節 福祉住環境整備の重要性・必要性 ③3節 在宅生活の維持とケアサービス		
4～5	第二章 健康と自立を目指して	④1節 高齢者の健康と自立 ⑤2節 障害者が生活の不自由を克服する道		
6～8	第三章 バリアフリーとユニバーサルデザイン	⑥1節 バリアフリーとユニバーサルデザイン 2節 生活を支えるさまざまな用具 ⑦前半テスト(第1章～第3章 ⑧2節 生活を支えるさまざまな用具		
9～10	第四章 安全・安心・快適な住まい	⑨1節 住まいの整備のための基本技術 ⑩2節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい 3節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい。		
11	バリアフリー住宅 事例紹介	ある住宅の図面をみながらどこにバリアフリーの工夫がされているか皆で考えながら実践を身につける。		
12～14	第五章 安心できる住生活とまちづくり	⑪1節 住まいの整備のための基本技術 ⑫2節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい 3節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい ⑬後半テスト(第3章～第5章)		
15	特別講義	⑭住環境/福祉用具について:福祉施設の会社の方に講義をして頂き高齢者の住環境の注意点(福祉用具の種類を知る)講義後、レポートを提出。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
福祉住環境コーディネーター検定試験3級 A4ファイル		・前半試験 ・後半試験 ・レポート提出	45% 45% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間表現基礎2		建築学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	年盛寛
授業の概要				
Adobe Illustrator、Photoshopの基礎を学び、作りたい印刷物の制作ができるようになる。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C以上) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Adobe illustrator,Photoshopを用いて、表現することができる。</li> </ul> (標準目標:B以上) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Adobe illustrator,Photoshopを用いて伝わるデザインを、表現することができる。</li> <li>• Adobe illustrator,Photoshopの操作を理解し、印刷設定ができる。</li> </ul> (発展的目標:A) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Adobe illustrator,Photoshopを用いて他にはない工夫を凝らし伝わるデザインを表現することができる。</li> <li>• Adobe illustrator,Photoshopの操作を理解し、他者に教えることができる。</li> <li>• 印刷の設定を間違いなくすることができる</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
無				
時間外に必要な学修				
基本操作の復習、エクストラ問題のチャレンジ				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	IllustratorとPhotoshopの違い		
2	Illustratorの基本知識	解像度の話 Illustratorの特徴 レイヤーの概念 ツールの紹介		
3	基本的な図形を描いてみよう	図形ツールの使い方 ① Tranning Sheetで実習 拡大縮小・回転・移動 色について		
4	複雑な図形を描いてみよう	オブジェクトの複製 ② Tranning Sheetで実習 回転ツール、変形ツール、ブレンドツール パスファインダー		
5	ペンツールの使い方	ペンツールの基本操作 ③Tranning Sheetで実習 ハンドルの切り替え アンカーポイントの切り替え		
6	Photoshopの基本知識	解像度について Photoshopの特徴 レイヤーの概念 ツールの紹介		
7	選択範囲	なげなわツールと自動選択ツール、被写体を選択 ブラシを使った選択 色を使った選択		
8	切り抜きと合成	画像の切り抜き コラージュ作品作成 ④コラージュ作品		
9	色調補正とフィルター	画像加工 調整レイヤー レイヤースタイル		
10	文字と写真を入れよう	文字の入力と調整 文字のアウトライン化 画像の配置について 形に沿った文字入力と加工(袋文字や影)		
11 ～ 12	名刺を作ってみよう	トンボについて ガイドについて レイアウトについて		
13 ～ 14	ロゴを作ってみよう	ロゴと名刺を合わせて⑤オリジナル名刺完成		
15	まとめ	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Trannig Sheet、スライド、参考資料などを		課題①～⑤	各20%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間表現基礎1		建築学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
180分	11回	44時間	必須	小笹和子
授業の概要				
手描きパースの指導・実習を行う。住宅のインテリア空間及び外観をスケッチ、パース(簡略図法)で立ち上げインキングや着色を行う。				
授業終了時の到達目標				
<p>[基本目標]・図面を基に縮尺に正確に立ち上げが出来る・パースのグリッドの取り方を理解する・マーカーによる着色表現が出来る</p> <p>[標準目標]・自身の空間デザインイメージを正確に一消点パースで表現出来る・アイソメトリックパースで空間表現が出来る・マーカーによる着色表現のステップアップ(特に陰影表現)</p> <p>[発展的目標]・二消点の室内パース、及び、二消点の外観パース表現が出来る・シーンに応じてドローイングの使い分けが出来る・インテリア及びエクステリアのデザインイメージが表現出来、実務で素早く対応出来るフリーハンドスケッチが描ける・パースを取り入れたプレゼンテーションが出来る</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	パース製作デザイン事務所を経て、内装及び外観パース製作・指導に従事。他、手描きイラスト制作等。			
時間外に必要な学修				
立体や空間を二次元で表現する演習なので、小さなスケッチ帳を日頃から携行し、モノやデザインのイメージ等をラフスケッチする癖をつけることが実践に繋がる。				
回	テーマ	内容		
1	第1課題「箱のスケッチ」	授業概要説明・フリーハンドラインレッスン・箱のスケッチ演習		
2	点景演習・一消点パースの基礎	家具、グリーン、人物、車の点景演習・四角い箱を立ち上げるレッスン		
3	第2課題「室内の一消点パース基礎」	一消点パースのグリッドの作成及び下書き		
4		ピグマにてフリーハンドインキング、マーカー着色仕上げ・次課題の準備		
5	校外学習①	ショップ見学とスケッチ演習		
6	第3課題「室内の一消点パース応用」	グループワーク、プランニング、外観二消点パース制作		
7	「外観二消点パース」	室内の二消点パースのグリッドの作成及び下書き、インキング		
8		アイソメトリックパース(パース応用)		
9		マーカー着色仕上げ、ボード制作、グループプレゼンテーション		
10	校外学習②	出張ワークショップ		
11	講評	まとめ・個人面談(予定)		
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「スケッチ感覚でインテリアパースが描ける本」 製図道具一式・マーカー		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100.0%	質問等はメールでも受け付けます。補習も要相談

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図1		建築学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
180分	15回	60時間	必須	橋本明美
授業の概要				
建築CADソフトJW_cadの操作を習得し、CADによる図面の作成方法等について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
CADの特徴を理解し、操作方法を身に付け、習得した建築製図や設計手法をCADで表現できる。				
[基本目標:C評価以上]				
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な設定が理解でき、図形の作図ができる</li> <li>簡単な家具や平面図の作図ツールの操作が理解できる</li> <li>図面作成のための作図ツールの操作が理解できる</li> </ul>				
[標準目標:B評価以上]				
<ul style="list-style-type: none"> <li>作図手順を理解し図形の作図が正確にできる</li> <li>作図手順を理解し家具や平面図の作図ができる</li> <li>建築製図の知識をもとに図面の作図ができる</li> </ul>				
[発展的目標:A評価]				
<ul style="list-style-type: none"> <li>作図ツールを使いこなし要求した図形の作図ができる</li> <li>作図手順を理解し家具や平面図の作図が正確にできる</li> <li>建築製図の知識をもとに作図ツールを使いこなし、図面の作図ができる</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務			
時間外に必要な学修				
CADソフトを使ってどれだけ作図したかがCADの技術習得の向上につながるので、操作の復習など積極的にCADを使って慣れる。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要と基本操作	JW_cadの基本操作 作図と消去、画面表示の操作、作図の編集		
2	作図練習①	課題図面の作図 寸法の決まった図の作図と図面保存		
3	作図練習②	課題図面の作図 図面を開き、かき加える		
4	作図練習③	課題図面の作図 家具の作図		
5	作図練習④	課題図面の作図 簡単な平面図の作図		
6	作図練習⑤	課題図面の作図 文字の記入、寸法の作図		
7	レイヤ操作の習得と図面枠の作図	レイヤ操作練習 図面枠の作図		
8	基本的な平面図の作図①	課題図面の作図① 事務所ビル1階平面図の作図		
9	基本的な平面図の作図②	課題図面の作図② 事務所ビル1階平面図の作図		
10	基本的な平面図の作図③	課題図面の作図③ 事務所ビル2階平面図の作図		
11	基本的な平面図の作図④	課題図面の作図④ 事務所ビル2階平面図の作図		
12	応用課題①	課題図面の作図① 住宅図面のトレース		
13	応用課題②	課題図面の作図② 住宅図面のトレース		
14	応用課題③	課題図面の作図③ 住宅図面のトレース		
15	まとめ	課題図面の手直し、ブラッシュアップ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>やさしく学ぶJW_cad☆デラックス</li> <li>プリント配布</li> </ul>		到達目標の到達度と課題提出物により総合的に評価する。	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図2		建築学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
180	15	60時間	必須	半田和之
授業の概要				
3DCADソフトを使用して設計図を3次元化しプレゼンテーションの幅を広げる為の技術を養う。				
授業終了時の到達目標				
1. ソフト基本操作を理解し、図形の作図ができる 2. 2次元及び3次元ツールを操作し、図面の作図ができる 3. 3DCADを活用し、プレゼンテーション内容の充実を図ることができる				
到達目標に応じた学修目標				
[基本目標:C評価以上]				
①基本的な設定を理解し図形の作図ができる				
②図面作成のための作図ツールの操作が理解できる				
③図面レイアウトや図面表現のための設定が理解できる				
[標準目標:B評価以上]				
①要求されている図形の作図ができる				
②建築製図の知識をもとに図面の作図ができる				
③設定やツールを使いこなして図面の作成ができる				
[発展的目標:A評価]				
①要求されている図形の作図やデザインができる				
②要求されている図面のレイアウトや図面表現ができる				
③自分なりに工夫し図面レイアウトや図面表現ができる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業で学んだことを他の授業でも活用し、実践を通して理解を深めること。 また、建築インテリアに限らず専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	3DCGとは	授業内容の説明、ソフトの説明、ソフトのインストール、作業環境設定、		
2	基本操作 I・II【SKETCHUP】	画面と各部名称 基本操作、レイヤの設定と縮尺 3D作図の基本		
3	3D作図基礎 I【SKETCHUP】	3D作図の基本		
4	3D作図基礎 II【SKETCHUP】	3Dモデリング1		
5		3Dモデリング2		
6		3Dモデリング3		
7	3D作図基礎 III【TWINMOTION】	3Dレンダリング1		
8		3Dレンダリング2		
9		3Dレンダリング3		
10	3D作図応用【SKETCHUP+TWINMOTION】	課題作図 名作住宅を作る1		
11		名作住宅を作る2		
12		名作住宅を作る3		
13		名作住宅を作る4		
14		名作住宅を作る5		
15	まとめ	講評会、課題作品のブラッシュアップ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
SketchUpパーフェクト 作図実践+テクニック編 課題資料:プリント配布		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図1		建築学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
180分	26回	104時間	必須	岡田英治
授業の概要				
<p>建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 また、作図を通して建築・インテリア各部の基本的な名称、納まりなどについても学習する。 主に木造2階建て住宅を教材とし、鉄筋コンクリート造住宅についても行なう。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>二級建築士試験における製図の試験課題の答案レベルの作図表現をめざす。 CAD製図及び実務のために必要な図面を読み取る能力も身に付ける。</p> <p>(基本目標:C評価以上) ・課題の内容を正しく作図できる</p> <p>(標準目標:B評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる</p> <p>(発展的目標:A評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験			
時間外に必要な学修				
<p>課題で作図している内容を自宅に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。</p>				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス、第1課題:「線の練習」	授業の注意事項及び製図道具の説明		
2		線の太さと線の種類の描き分けの練習		
3	第2課題:「木造住宅 配置図・平面図」	教科書の木造2階建て住宅の配置図、各階平面図を作図する		
4				
5				
6				
7	第3課題:「木造住宅 断面図・立面図」	教科書の木造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する		
8				
9				
10	第4課題:「鉄筋コンクリート造住宅 配置図・平面図」	教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の配置図、各階平面図を作図する		
11		＜本課題までを前期評価の対象とする＞		
12				
13	第5課題:「鉄筋コンクリート造住宅 断面図・立面図」	教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する		
14				
15				
16	実務の設計図とその施工中、竣工の様子の	担当教員が実際に担当した住宅等の実務の紹介		
17	第6課題:「鉄筋コンクリート造住宅 矩計図」	教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の矩計図をトレースする		
18	第7課題:「木造住宅 矩計図」	教科書の木造2階建て住宅の矩計図をトレースする		
19	第8課題:「木造住宅 平面詳細図・展開図・天井伏図」	教科書の木造2階建て住宅の平面詳細図(和室)、展開図を作図する		
20		教科書には記載のない天井伏図についても作図する		
21				
22	第9課題:「二級建築士製図の試験過去課題答案例」	過去の二級建築士製図の試験で出題された課題の模範回答例を作図する		
23		＜本課題までを後期評価の対象とする＞		
24				
25				
26	まとめ・テスト	建築製図の総括と、スケール感のテストを実施する		
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式		全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間表現応用		建築学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	24回	48時間	必須	佐々木智子
授業の概要				
<p>・デザインにおける色彩の働き、重要性を知る。・系統的な色表示、さまざまな配色類型、色彩の心理的な側面を学ぶ。・色彩コンセプトに基づいた作品構成及びプレゼンテーションを行う。・色彩の基礎知識を学ぶことにより、個性を生かしながら、空間デザインにおける表現を豊かにする。・色彩検定UC級以上の合格を目指す。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>基本目標:C評価以上                  ・ヒュートーンシステムの概念について理解し、カラーコードとして使用できる・基礎配色をデザインに活用できる・色彩の科学について理解する</p> <p>標準目標:B評価以上                  ・色彩検定UC級合格もしくはそれに準ずる学習度に達している</p> <p>発展的目標:A評価                  ・デザインに対し、オリジナルな創作的姿勢や関心を持って取り組む</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		パーソナルカラールームT・I、NPO法人カラーリストジャパン協会でのカラーコンサルティングの経験を生かし、建築・インテリアにおけるカラーコーディネートの実務を指導する。		
時間外に必要な学修				
身の回りにあるさまざまな色彩デザインに興味を持つこと。				
回	テーマ	内容		
1	デザインと色彩について/色彩検定ガイド	授業の目的と進め方について、配色シートの作成、色彩検定に関する説明		
2	カラーシステムの理解	色の表示方法:PCCS、ヒュートーンシステムについて理解する、トーン図作		
3		トーンイメージに基づく平面構成演習		
4		色相イメージに基づく平面構成演習		
5	色彩の心理的側面	色彩心理:色から連想されるもの、受けるイメージについて理解する		
6		色彩感情と色のイメージ		
7	基礎配色	色相配色について理解する		
8		トーン配色について理解する		
9		アクセントカラー、セパレーション、グラデーション		
10	環境における色彩計画	色彩が生活空間にどのような影響を与えるのか確認する		
11	色彩応用演習	配色分析/作品構成		
12	カラーサイエンス基礎①	色と光について		
13	カラーサイエンス基礎②	眼の構造及び働き		
14	カラーサイエンス基礎③	色の視認性、誘目性、識別性		
15	カラーコードに関する知識をその活用	マンセルシステム		
16	色彩検定対策強化	色覚のタイプによる色の見え方		
17		高齢者の見え方		
18		ユニバーサルデザインの進め方		
19		色の機能的役割		
20		問題演習		
21		過去問題演習		
22		過去問題演習		
23	インテリアにおける色彩表現	配色類型に基づいてインテリアパースに着彩		
24	〃	イメージ配色に基づいてインテリアパースに着彩		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
色彩検定UC級公式テキスト 色彩検定過去問題 新配色カード199b		到達目標に即して各課題の提出状況及び到達度で評価する	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築設計演習1		建築学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	衛藤翔平
授業の概要				
<p>人間生活の基本となる住まい、居住空間の設計・デザインの知識と技術について、演習課題を通して体験的に習得する。住まいの設計はすべての建築(空間)設計の基本となると言われる。また、住まいとひとと言っても、ハウスメーカーの住宅から集合住宅、建築家やデザイナーの設計による個性的な住宅など、現代社会の中で多様な在り方が見受けられる。この授業を通して、住まいの設計の基本、さらには、現代建築の文脈の中で新しい価値を生むような住まいの在り方を探究できるような視点を育てる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅設計の基本プロセスが理解できる</li> <li>・手描きでエスキスやスケッチができる</li> <li>・考えを少しでも設計に反映させることができる</li> </ul> <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件を整理し標準的な住宅が設計できる</li> <li>・毎週(区切り)ごとに定期的にチェックを受けて案をより良いものに修正することができる</li> <li>・第三者に伝えるうえで必要十分なプレゼン資料(模型・ボード)を制作できる</li> </ul> <p>(発展的目標:A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代建築の文脈の中で先進的なコンセプト・提案性を持つ住まいの設計・デザインを考えられる</li> <li>・他の学生に対し指標となる制作プロセスを授業中のデザインレビュー等で公開することができる</li> <li>・第三者を魅了するプレゼン資料(模型・ボード)を制作できる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
<p>授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	予備課題: 建築的(空間的)視点	自己分析 「好き」を言語化してみる(課題1)		
2		Candy-box house/菓子箱の家(課題2)		
3		My home 20XX: 将来の自邸について考えてみる(課題3)		
4		公開プレゼンテーション		
5	第1課題: 名作との対話	名作住宅の図面トレース, 基本構造と間取りの分析(課題4)		
6		名作住宅を現代にアレンジするためのコンセプトを考える(課題5)		
7		プランニング		
8		住宅のサイズあれこれ		
9		平面図チェック(課題6)		
10		断面図のはなし		
11		模型で確かめる		
12		模型を撮影する(課題7)		
13		プレゼンボードの作り方		
14		↑		
15		プレゼンボードをまとめる(課題8)		
16	第2課題: 街に開いた住宅	コンセプトの設定(課題9)		
17		ゾーニングからのプランニング		
18		図面チェック(課題10)		
19		図面チェックバック		
20		プレゼン資料作成		
21		↑		
22		↑		
23		プレゼンボードをまとめる(課題11)		
24	第3課題: 周辺環境を読む	コンセプト設定(課題12)		
25	(年内)	プランニング(課題13)		
26		図面チェックバック		
27		プレゼン資料制作		
28		↑		
29		プレゼンボードをまとめる(課題14)		
30		フィードバック		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ 模型道具一式 製図道具一式(平行定規を除く)		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ショップデザイン		建築学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	必須	河江正雄
授業の概要				
実際の設計業務に即し前期は1授業1テーマとして、イメージ模索、基本 計画、プレゼンボードの作成、プレゼン資料の作成をする。				
授業終了時の到達目標				
実際に設計を行う際に必要である業務を1年に渡って習得する。 実践で必ず必要となるプレゼン能力も同時に高める。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	1年間の授業内容の説明、資料配布	課題01、課題02、課題03-1		
2		課題03-2、模型の作り方の基本		
3		課題03-3、模型の作り方の基本		
4		課題03-4、模型の作り方の基本		
5		課題03-5、模型の作り方の基本		
6		課題03-6、模型の作り方の基本		
7		課題03-7、模型の作り方の基本		
8		課題03-8、模型の作り方の基本		
9		課題03-9、模型の作り方の基本		
10		課題03-10、模型の作り方の基本		
11		課題03-11、模型の作り方の基本		
12		課題03-12、模型の作り方の基本		
13		課題03-13、模型の作り方の基本		
14		課題03-14、模型の作り方の基本		
15		課題03-15、模型の作り方の基本		
16		課題03-16、模型の作り方の基本		
17		課題03-17、模型の作り方の基本		
18		課題03-18、模型の作り方の基本		
19		課題03-19、模型の作り方の基本		
20		課題03-20、模型の作り方の基本		
21		課題03-21、模型の作り方の基本		
22		課題03-22、模型の作り方の基本		
23		課題03-23、模型の作り方の基本		
24		課題03-24、模型の作り方の基本		
25		課題03-25、模型の作り方の基本		
26		課題03-26、模型の作り方の基本		
27		修了制作		
28		修了制作		
29		修了制作		
30		修了制作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
模型道具一式 製図道具一式		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問, チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築デザイン		建築学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	必須	山根利之
授業の概要				
建築の設計について、動線計画、断面計画、グリッドプラン、敷地計画などの設計の基本手法を実践的に習得するとともに、提案力と独創性を実践的に習得する。また、作品としての表現力を向上させる。建築設計演習2(2年生)と合同授業。				
授業終了時の到達目標				
建築設計プロセスを理解できる。さらにそれらを活かして、修了制作へ発展させる。また、基本となる表現テクニックが身につく。 (基本目標:C評価以上) ・建築的空間の機能やコンセプトを立案することができる ・基本的な建築計画に沿って設計できる (標準目標:B評価以上) ・建築的空間の機能やコンセプトに基づいたデザインができる ・基本的な建築計画に沿った正確な図面表現によって設計できる (発展的目標:A評価) ・建築的空間の機能やコンセプトをデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる ・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所の経験を活かし、公共建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例収集と敷地環境調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「都市環境デザイン1」	「場所をデザインする」オープンスペース(1, 2年生混成共同設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。		
2~5	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表 デザインレビュー		
6	合同プレゼン 5/29	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
7	第2課題「図書館」	地域に開かれたコミュニティ図書館(1, 2年生混成共同設計) 小学校計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。		
8~12	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
13	合同プレゼン 7/17	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
14	第3課題「都市環境デザイン2」	公衆便所(個人設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。		
15~19	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
20	2年生合同プレゼン見学 11/6	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
21~24	デザイン案発表、デザインレビュー 卒制中間プレゼン見学 12/4	デザイン案発表、デザインレビュー		
25	第3課題プレゼン 12/11	1年第3課題の審査講評		
26	修了制作、予備日	不合格課題再提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題・レポート	100.0%	提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
インテリアプランニング		建築学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	11回	22時間	必須	山根利之
授業の概要				
住宅のリビングルーム、マンションのエントランス空間をデザインするための基礎的な知識・技術を修得する。				
授業終了時の到達目標				
<p>インテリア設計プロセスを理解できる。さらに基本となる表現テクニックが身につく。  (基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インテリア空間のコンセプトを立案することができる</li> <li>基本的なインテリア計画に沿って設計できる</li> </ul> <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インテリア空間のコンセプトに基づいたデザインができる</li> <li>基本的なインテリア計画に沿った正確な図面表現によって設計できる</li> </ul> <p>(発展的目標:A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インテリア空間のコンセプトに基づきデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる</li> <li>正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所の経験を活かし、内部空間をデザインするための知識と技術を教える。		
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例データ収集と施設調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題 ①「住宅のリビングルーム」 ②「お気に入りのインテリア 写真のトレース着彩」	課題説明 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。  様式、デザイナー研究		
2-3	確認	①デザインレビュー ②トレース確認		
4	第1課題プレゼン	発表と講評		
5	第2課題 「マンションのエントランス」	課題説明 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。  マンションのエントランス研究		
6-7	デザインレビュー	ラフデザイン案発表、コンセプト		
8	中間プレゼン	発表と指示		
9	デザインレビュー、作業	模型、作品ボード作業		
10	第2課題プレゼン	発表と講評		
11	予備日	不合格者再提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題	100.0%	提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態	
修了制作		建築学科/1年	2024/後期	演習	
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員	
90分	69回	138時間	必須	山根利之	
授業の概要					
1年間の総括として住宅、集合住宅を自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。					
授業終了時の到達目標					
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		建築設計事務所の経験を活かし、建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修					
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。					
回	テーマ	内容			
1	授業概要説明 第1課題「修了制作」	テーマ設定のための調査			
2-66	デザイン案検討	コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討 作図、模型製作、ボード構成			
67-69	最終プレゼン	完成模型、作品ボード			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他	
		課題	100.0%		



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
施工		建築学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	上田一喜
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>建築物の新築工事、改修工事を中心とした施工全体の流れと、個々の施工段階の内容を学ぶ。</li> <li>建築設計者の立場から見た、建築施工の勘所を知る。</li> <li>建築に関わるステークホルダーとその相関関係を理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>設計者として施工に配慮した建築設計を行うための思考力の習得。</li> <li>実務において施工者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。</li> <li>建築士資格や施工管理技士資格取得のための施工に関する基本的知識の習得。</li> </ul>				
(基本目標:C評価以上)				
講義の内容を理解して、各講義ごとのレポートシートや期末課題を、設問に合わせて適切に記載出来ている				
(標準目標:B評価以上)				
自らの設計課題や建築やインテリアを見聞きた経験を、講義内容と論理的に結び付けて説明できる				
(発展的目標:A評価)				
建築インテリアデザイナーとしての立場と、施工者としての立場をよく理解し、相手の立場を配慮したコミュニケーション技術の基礎が身についている。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
講義内容について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	前期授業概要説明	建築物施工の一連の流れ、建築に関わるステークホルダー 建築設計者の立場から、施工及び施工者に対する基本的な考え方		
2	内装仕上げ工事-1	壁、床、天井等の下地、仕上げ		
3	内装仕上げ工事-2	建具、ガラス、金属、造作、ユニット等		
4	設備工事、外構工事	電気、空気調和、給排水衛生、昇降機・機械式駐車場、防災設備等 植栽、舗装、工作物、外構設備等、免震対応、ZEB、再生可能エネルギー		
5	外装仕上げ工事-1	屋根(防水、屋根)、外壁(RC、ECP、ALC、PC、CB)、断熱		
6	外装仕上げ工事-2	仕上げ(石、左官、タイル)、サッシ、カーテンウォール		
7	躯体工事-1	RC(型枠、鉄筋、コンクリート)		
8	躯体工事-2	SRC、S、地震に対応する技術		
9	改修工事	耐震改修、防水改修、外壁改修、設備改修、改修仮設 リニューアル、リノベーション、コンバージョン		
10	土工事	山留、杭、掘削		
11	工事管理	建築生産の流れ、工事に携わる人々と組織体制 ゼネコンとサブコン、建築施工の仕事、工程		
12	工事請負契約、積算	設計図書役割、工事請負契約の構成、施工者の法的責任 発注形態、工事見積の構成、積算の考え方		
13	準備工事、解体工事	地鎮祭、調査、仮設工事、改修仮設 解体、建設産廃		
14	竣工、維持保全	検査、引き渡し、竣工式 LCC、竣工後の点検・保守、修理・修繕・更新		
15	まとめ 施工と設計の違い、施工者と設計者の 違い	設計者から見た施工者、施工者から見た設計者 工事管理と工事監理、工事請負契約と設計監理契約 設計図を介した建築主、設計者、施工者の意思伝達		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
施工がわかる イラスト建築生産入門 適宜配布資料、映像資料等を提供		各講義ごとのレポートシートの内容 期末課題の内容	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
設備		建築学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	上田一喜
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>建築物の設備の目的・役割や、設備それぞれのメリットデメリットを学ぶ。</li> <li>意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備の勘所を知る。</li> <li>地球環境に配慮した設備デザインの手法を学習する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>建築設計において、設備システムや環境諸条件を配慮した設計を行うための思考力の習得。</li> <li>実務において設備設計者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。</li> <li>建築士資格や建築設備士取得のための設備に関する基本的知識の習得。</li> </ul>				
(基本目標:C評価以上)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の内容を理解して、各講義ごとのレポートシートや期末課題を、設問に合わせて適切に記載出来ている</li> </ul>				
(標準目標:B評価以上)				
自らの設計課題や建築やインテリアを見聞きした経験を、講義内容と論理的に結び付けて説明できる				
(発展的目標:A評価)				
建築インテリアデザイナーを行う意匠設計者の立場と、設備設計者としての立場をよく理解し、相手の立場を配慮したコミュニケーション技術の基礎が身についている。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
講義内容について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	後期授業概要説明	建築設備の全体像、建築計画・建築環境と設備のマッチング 地球環境問題と建築・設備		
2	電気設備-1	電気設備の概要 発電、送電、受変電、動力、電灯、コンセント		
3	電気設備-2	弱電、情報関連設備 照明のエコ、シミュレーション		
4	電気設備-3	電気設備とデザイン、環境利用		
5	空調設備-1	空調設備の概要 気流分布、温熱環境、空調方式、空調制御、熱源方式		
6	空調設備-2	換気 空調のエコ、シミュレーション		
7	空調設備-3	空調設備とデザイン、環境利用		
8	給排水衛生設備-1	給排水衛生設備の概要 給水、給湯、排水、ガス		
9	給排水衛生設備-2	衛生のエコ 給排水衛生設備とデザイン、環境利用		
10	防災設備	消火設備、警報設備、避難設備、排煙設備 建築基準法、消防法との関係、防災設備とデザイン		
11	昇降機設備・機械式駐車設備	エレベーター、エスカレーター、ダムウェーター 昇降機設備とデザイン 機械式駐車設備のバリエーション		
12	設備設計と監理	設備設計における図面表現 設計上、監理上の留意点		
13	設備のエコ、環境性能評価	パッシブデザイン、建築計画とエコ 環境性能評価の手法		
14	維持管理、メンテナンス、更新	設備の耐用年数とメンテナンス 建築計画と更新性、更新時の配慮		
15	まとめ 設備と建築計画	建築物に求める環境性能、建築計画にとって適切な設備設計 意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる建築設備 適宜配布資料、映像資料等を提供		各講義ごとのレポートシートの内容 期末課題の内容	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造1		建築学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	櫻庭 誠
授業の概要				
①建物にはたらく力は、どのような力があるか理解する。 ②木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における材料の特性を理解・習得する。 ③木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における構造形式・構成を理解・習得する。 ④主体構造によって使用する材料や各部の作り方の違いについて理解・習得する。				
授業終了時の到達目標				
①建物にはたらく力には、どのような力があるか名称が分かる。 ②木造建物の特徴と各部構造の骨組み及び内部、外部仕上げの構成が理解できる。木造の耐力壁の計算が出来る。 ③鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における特性と各部の骨組み構成を理解できる。 ④木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造において使用する材料の強度・特徴について理解できる。 ⑤上記のそれぞれの建物の基本の理解から、独自の構造・仕上げに発展させることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。		
時間外に必要な学修				
授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。 疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもって観察をする癖をつける。				
回	テーマ	内 容		
1	シラバスの説明 第1章 建物にはたらく力と構造計画	建築構造を学ぶにあたって。 ①建物にはたらく力 ②地震に対する対策 ③建物全体の構造計画		
2	第2章 木構造	1. 木材:木材の特徴・木質材料 2. 木構造の基礎知識:木構造の特徴構造形式		
3		3. 在来工法:基礎・地業・軸組		
4		3. 在来工法:柱頭・柱脚金物の位置基準・耐力壁の壁量計算 耐力壁の配置		
5		3. 在来工法:小屋組・床組・階段・接合部		
6		4. 枠組壁工法:①木材、面材の種類・釘、金物の種類・②各部構造、土台、アンカーボルト 床組、耐力壁、小屋組、屋根・木構造振り返り		
7	第3章. 鉄骨造	1. 鋼材:鋼材の特徴,鋼材の形状・ 2. 鉄骨造の基礎知識:鉄骨造の特徴,構造形式		
8		3. 鉄骨構造:接合部材の設計,各部の構造,床板,階段,耐火被覆		
9	第4章 鉄筋コンクリート造	1. コンクリートと鉄筋:コンクリートの特徴,鉄筋の特徴 2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識:鉄筋コンクリート造の特徴,鉄筋コンクリート造の原理,構造形式		
10		3. 鉄筋コンクリート構造:鉄筋の配筋計画,各部構造,階段 4. 壁式鉄筋コンクリート造:壁式鉄筋コンクリート造,壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造		
11	第5章 その他の構造 第6章 基礎	5章:1. 鉄骨鉄筋コンクリート造 ・2. 補強コンクリートブロック造 ・3. プレストレストコンクリート造 6章:1.基礎 ・2.地盤		
12	第7章 下地と仕上げ	1.防水 2.各部の下地と仕上げ,屋根,屋根,壁,床,天井		
13		3.開口部 ・4.階段 ・5.和室 鉄骨造・鉄筋コンクリート造:振り返り		
14	期末試験	期末試験		
15	構造まとめ	試験解説 全体まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
やさしい建築一般構造(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造2		建築学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	櫻庭 誠
授業の概要				
①練習問題を通して、鉄筋コンクリートの建物にはたらく力を習得する。 ②使用する材料の特徴・構造形式・構成を深く理解し習得する。				
授業終了時の到達目標				
①鉄筋コンクリート造の特徴と各構造・構成を理解する。 ②鉄筋コンクリート造に使用される各材料の特徴と理解する。 ③資格試験に対応できる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。		
時間外に必要な学修				
授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。 疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもって観察をする癖をつける。				
回	テーマ	内 容		
1	第4章 鉄筋コンクリート造	1. コンクリートと鉄筋 :コンクリートの特徴、鉄筋の特徴		
2	第4章 鉄筋コンクリート造	2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識 :鉄筋コンクリート造の特徴、鉄筋コンクリート造の原理、構造形式		
3	コンクリート一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
4	コンクリート一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
5	コンクリート一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
6	コンクリート強度に関する問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
7	鉄筋コンクリート一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
8	鉄筋コンクリート一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
9	配筋に関する問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
10	鉄筋比に関する問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
11	壁式鉄筋コンクリート造に関する問題一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
12	補強コンクリート造に関する問題一般問題	7～8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
13	全体問題	20問 70分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
14	期末試験	期末試験		
15	構造まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
やさしい建築一般構造(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造力学1		建築学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	櫻庭 誠
授業の概要				
<p>①建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を理解し習得する。          ②力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。          ③単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。          ④構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①力の基礎:力の表現・モーメント・力の釣り合いが理解できる。          ②反力・応力計算において釣り合い条件式を使いこなす事が出来る。          ③静定構造物に発生する反力・応力(曲げモーメント:M・せん断力:Q・軸方向力 N)を仮定をし、反力・応力が求められる。          ④求めた反力・応力をもとに(曲げモーメント図・せん断力図・軸方向力図)応力図が描ける。          ⑤静定トラスの解法が(切断法・接点法・図解法のいずれかで)出来る。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。			
時間外に必要な学修				
<p>授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。          疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。          聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもって観察をする癖をつける。</p>				
回	テーマ	内容		
1	シラバス説明 構造力学概要	構造に役に立つ計算式をやってみる(プリント)		
2	序章 力の基礎 1章 反力	力の基礎:分布する力、力のつり合い 1-1構造物の種類と表現		
3	1章 反力	1-2 単純梁の反力・1-3 片持ち梁の反力 1-4 ラーメンの反力 練習問題実施		
4	2章 部材に生じる力(応力)	2-1 応力の種類 2-2 応力の計算方法(単純梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
5		2-2 応力の計算方法(片持ち梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
6		2-2 応力の計算方法(単純ラーメン)集中荷重・分布荷重 練習問題実施 振り返り		
7	2章 部材に生じる力(応力)+(応力図)	単純 梁:反力・応力・応力図 練習問題実施 片持ち梁:反力・応力・応力図 練習問題実施		
8		単純ラーメン:反力・応力・応力図 練習問題実施		
9	3章 静定構造の実用的解法	3-1 せん断図の作図法 単純梁・単純ラーメン		
10		3-2.3 曲げモーメント図の作図法 単純梁・単純ラーメン		
11		3-4 重ね合わせの原理 単純ラーメン		
12	4章 静定トラスの解法	4-1 切断法		
13	4章 静定トラスの解法	4-2 接点法・4-3図解法 振り返り		
14	期末試験	期末試験		
15	構造力学まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説・建築構造力学(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造力学2		建築学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	櫻庭 誠
授業の概要				
①建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を習得し少し複雑な構造体まで解くことが出来るようにする。 ②力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。 ③単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。 ④構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。 ⑤断面に関する数量について理解する。座屈について理解する。				
授業終了時の到達目標				
力の種類と大きさ、支持要素、変形などについて理解する。 1) 力の釣り合い式を使いこなせる。 2) 静定構造物に発生する反力・応力が求められる。 3) 断面に関する数量について理解する。(重心、断面1次・2次モーメント、断面係数、応力度、ヤング係数)				
実務経験有無		実務経験内容		
有		組織設計事務所での構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。 様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。		
時間外に必要な学修				
授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。 疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもって観察をする癖をつける。				
回	テーマ	内 容		
1	1章 反力 2章 部材に生じる力	単純梁の反力・1-3 片持ち梁の反力・1-4 ラーメンの反力 練習問題実施 応力の計算方法(単純梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
2	2章 部材に生じる力	応力の計算方法(片持ち梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
3	2章 部材に生じる力	応力の計算方法(単純ラーメン)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
4	4章 静定トラスの解法	4-1 切断法 練習問題実施 解説		
5		4-2 接点法 練習問題実施 解説		
6	5章 断面に関する数量	図心・断面1次モーメント 練習問題実施 解説		
7		断面2次モーメント・断面係数 練習問題実施 解説		
8	6章 応力度	6-1 引張(圧縮)応力度		
9		6-2 曲げ応力度 6-3 せん断応力度		
10		6-4 許容応力度 6-5 許容曲げモーメント		
11		7-6 曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ 練習問題実施 解説		
12	12章 座屈	12-1 弾性座屈荷重 練習問題実施		
13		反力～座屈まで練習問題実施 疑問等解説		
14	期末試験	期末試験		
15	構造力学まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説・建築構造力学(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築法規		建築学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	岡田英治
授業の概要				
<p>社会で実際に建築行為等をする場合には法規を避けて通ることはできません。規制である反面、より良い都市・建築環境を創るためのバイブルでもあります。1年次に製図の授業で作図した住宅等をモデルに、建築基準法を中心にその内容を解説する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>一戸建ての住宅を設計する際に必要となる法令知識を身につける。</p> <p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる</li> <li>考査(課題レポート)においての評点に加え、小課題レポートの加点により60点以上を獲得できる</li> </ul> <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる</li> <li>考査(課題レポート)においての評点に加え、小課題レポートの加点により70点以上を獲得できる</li> </ul> <p>(発展的目標:A評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる</li> <li>考査(課題レポート)においての評点に加え、小課題レポートの加点により80点以上を獲得できる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に伴う法的実務経験		
時間外に必要な学修				
授業で学習した法規規定がどのように実際の建物に影響を与えているか、自宅や通学途中に目にする建築物について考えてみること。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス・イントロダクション	授業の注意事項。建築基準法とはどのようなものか。建築基準法		
2	総括的規定1	用語の定義。		
3		面積と高さ。道路と敷地。壁面席。		
4	実態的規定－集団規定	用途地域と用途制限、防火指定。		
5		容積率、建蔽率。		
6		高さ制限と緩和。		
7		日影規制。		
8	実態的規定－単体規定	採光、換気。		
9		一般構造、設備。(防火避難規定)耐火要求、法22条区域。		
10	実態的規定－防火・避難規定	防火区画、内装制限。		
11		避難施設、非常用の避難施設。		
12	実態的規定－構造規定	構造計算、その他構造。		
13		木造、壁量計算、その他の構造。		
14	その他関係法規	手続きと建築基準法以外の法令について。(特に消防設備)		
15	まとめ	レポートの講評。		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「超入門 建築法規 イラスト解説による 最新版」 参考書:「建築基準法関係法令集 2023年版」 参考書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 (1年時製図の教科書) 教材:配布プリント		期末考査	100%	質問などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
室内環境学		建築学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	松原綾
授業の概要				
私達を取り巻く自然環境、都市環境、そして快適な室内環境の要素である、【光・熱・空気・風・音】の基礎知識を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
光・熱・空気・風・音等の環境要素の基礎を理解する。 室内環境を取り巻く要素を知り、コントロールすることで快適かつ省エネな暮らし方を提案できるよう知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
・自分が生活や活動する室内空間が何によって快適に保たれているかを意識して観察する。				
回	テーマ	内容		
1～3	第一章 光環境	光環境の基礎知識について理解する。 ①授業概要、1-1 視覚、1-2 照度と輝度 ②1-3 昼光、1-4 人口照明 ③1-5 照明計画、2 色彩		
4～8	第二章 温熱環境	温熱環境の基礎知識について理解する。 ④1 温度と熱移動 ⑤2 室温と熱負荷 ⑥3 湿度と結露 ⑦前半テスト ⑧4 体感温度、5 太陽と日射 ⑨太陽と日射		
9～10	第三章 空気環境	空気環境の基礎知識について理解する ⑩1 室内の空気汚染物質、2 自然換気 ⑪3 機械換気、4 換気計画		
12～14	第四章 音環境	音環境の基礎知識について理解する ⑫1 音の性質 ⑬2室内の音 3室内の音響 4騒音と振動 ⑭後半テスト		
15	第五章 地球環境 特別講義	地球温暖化の今と住宅の温熱環境について理解する。 ⑮特別講義 講義後レポート提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説やさしい建築環境、A4ファイル		・前半テスト ・後半テスト ・レポート提出	45% 45% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
計画論2		建築学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山根利之
授業の概要				
住宅、集合住宅の空間構成手法、設計手法を事例を用いて学ぶ。 設計をまとめるための計画する方法を学ぶ。 反転授業形式で進める。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C評価以上) 建築・インテリアデザイナーとして必要な住空間の計画の知識が身につく。 ・住宅計画の手法を理解できる ・住宅を構成する様々な要素を、実体験を通して理解できる (標準目標:B評価以上) ・住宅計画の手法を設計に取り入れることができる ・住宅を設計するときに、実際の空間を理解し、正確に計画できる (発展的目標:A評価) ・住宅計画をインテリアデザイン、エクステリアデザインまでトータルな視点で設計に取り入れることができる ・コンセプトに基づいた独創的な住空間の計画を提案できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
今回の授業内容を踏まえて、授業内で指示する。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 住空間の構成	計画のプロセス 1敷地計画、2平面的類型、3断面的類型 1機能計画、2動線計画、3ゾーニングとブロックプラン		
2, 3	形の発想1 反2	形態的発想1～2  テキスト解説＋各事例紹介		
4, 5	形の発想2 反2	形態操作的発想1～2  テキスト解説＋各事例紹介		
6	インテリアデザイン1	インテリアデザインの発想		
7	インテリアデザイン2	インテリアデザインの手法		
8	インテリアデザイン3	光の様相、あかりのデザイン		
9	インテリアデザイン4 反	開口部のデザイン  テキスト解説＋各事例紹介		
10	エクステリアデザイン 反	水と緑の様相 エクステリアとインテリア エクステリアデザインの発想		
11	住空間構成手法1 反	フランクロイドライト  テキスト解説＋代表作数点解説		
12	住空間構成手法2 反	ル・コルビュジェ  テキスト解説＋代表作数点解説		
13	住空間構成手法3 反	ミースファンデルローエ  テキスト解説＋代表作数点解説		
14	住空間構成手法4 反	ルイスカーン  テキスト解説＋代表作数点解説		
15	住空間構成手法5 反	安藤忠雄  テキスト解説＋代表作数点解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
住空間計画学		発表1回/人 (第1,6-8週はQ&Aのみ)	100.0%	分担して各回発表

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築史		建築学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	上田一喜
授業の概要				
古代ギリシャ時代から、現代までの主要な建築を、写真や図版を見ながら学習し、建築と社会との関係性、構造の発展、意匠について説明する。また、単なる史実の伝達にとどまらず、現代における建築への向き合い方、設計におけるヒントなどへの気付きを得るために、毎回、授業の中で建築の模写(クロッキー)を行う。				
授業終了時の到達目標				
西洋における、各時代の建築様式の特徴と、その理念について理解する。 建築における構造、意匠(デザイン)とが、社会的また歴史的背景によって成立している事実について理解する。 現代におけるデザインの方向性、世界的な動向、注目される考え方などについて考察する。				
(基本目標:C評価以上) ・建築の歴史の変遷を理解する ・その時代の意匠的な特徴を模写で捉えることができる				
(標準目標:B評価以上) ・加えて、建築における表現とその背景にある社会の動きを関連して理解することができる				
(発展的目標:A評価) ・加えて、現代の建築意匠について歴史的見地から考察し、考えをプレゼンテーションできる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
教科書や紹介する映像や画像等で事前学習をして概要を理解しておくこと 模写について授業内で完成できない場合は次の週までに完成させデータを提出しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	概要説明 全史通観	スライドレクチャー、レビュー、ディスカッション、情報共有		
2	古代建築(ギリシャ建築、ローマ建築)	該当する時代の建築模写		
3	中世建築(ロマネスク建築、ゴシック建築)	該当する時代の建築模写		
4	近世建築(ルネサンス建築、バロック建築)	該当する時代の建築模写		
5	新古典主義、歴史主義、折衷主義	該当する時代の建築模写		
6	日本建築史	該当する時代の建築模写		
7	近代建築1(産業革命後の表現)	該当する時代の建築模写		
8	近代建築2(芸術運動としての建築)	該当する時代の建築模写		
9	20世紀建築1(モダニズム、その他)	該当する時代の建築模写		
10	20世紀建築2(ポストモダン、その他)	該当する時代の建築模写		
11	日本の住宅建築史	該当する時代の建築模写		
12	現代建築1	該当する時代の建築模写		
13	現代建築2	該当する時代の建築模写		
14	レポート	「建築デザインと歴史、社会」等		
15	まとめ、レビュー	レポート返却、まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説 建築の歴史		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図3		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
前180分 後270分	21回	96時間	必須	盛岡 隆治

授業の概要

- CADシステムを扱う上で、必要な基礎知識を習得する。
- 必要な資料から平面図、立面図をJWCADを使用して作図する。
- 建築CAD検定試験3級、2級、準1級の受験対策と、JWCADの基本操作を実際に作図しながら、より円滑な操作の習得を目指す。

授業終了時の到達目標

- (基本目標:C評価以上)
- 課題が4割程度作図できており、CADの基本操作が理解できる。
- (標準目標;B評価以上)
- 課題の7割以上が作図でき、課題やCAD操作の質問をし、それを作図に反映できる。
- (発展的目標:A評価)
- 建築CAD検定で3級においては確実に、2級では取得できると思われる作図技能を取得しており、課題を理解し複数の手順で書くことで、自分の作図を確認修正することができる。

実務経験有無

実務経験内容

有

建築設計事務所での設計・設計監理の業務。

時間外に必要な学修

CADの操作は慣れが必要です、できるだけ多くの時間CADに触れる機会をつくると良いと思います。特に夏休み期間はCADに触れる機会が少なくなり操作を忘れてしまい、10月の検定試験に慌てるのが毎年見受けられます、週に1~2回はパソコンを開き配布プリントを見て少しでも授業の復習をしてください。

他の授業でもCAD使える機会があれば使ってみましょう、操作で分からないところは質問してみてください。

JwCADはフリーソフト汎用ソフトです、様々な作図を試してみましょう。

回	テーマ	内容
1	検定課題の概要の説明,Jw_cad 概要、操作の復習。	検定内容の説明操作の復習。 3級過去問題プリント又はテキストによる練習。
2	3級過去問題による練習	3級過去問題プリント又はテキストによる練習。
3	JwCADの作図以外でよく使う機能の説明	図面作図以外に必要な操作の解説、プレゼンなどに役立つ機能。
4	2級過去問題(木造平面詳細図)による演習	検定内容の説明、プリント又はテキストによる平面詳細図の練習。
5		2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習。
6		2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習、復習。
7	2級過去問題(木造立面図)による演習	2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習。
8		2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習、復習。
9	2級過去問題による様々な屋根形状、立面図の	2級立面図のみ過去問題から2課題出題。
10		2級立面図のみ課題から出題解説。(どの級を受験するか確定する)
11	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
12		前時間からの課題作図終了後、チェック復習。
13	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
14		前時間からの課題作図終了後、チェック復習。
15	これまでの課題の総復習	これまでの課題チェック復習。(夏休み前の確認)
16	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
17	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
18	準1級、3級過去問題。2級は立面図を集中	準1級3級は作図時間の再確認、2級は屋根形状立面の確認。
19	準1級3級は過去問題の演習、2級は立面図の	準1級3級受験の弱い部分の強化、2級屋根形状立面の確認、復習。
20	試験前対策	試験前、総点検。
21	試験後復習	試験後の自己採点復習。
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材

評価基準

評価率

その他

教科書:建築CAD検定試験 公式ガイドブック  
課題資料:プリント配布  
教材:三角スケール、マーカー等

各課題は基本授業終了後に提出し授業中に作図した内容、到達程度での評価。

100.0%

質問は急ぎの事柄がない限り授業終了後の昼休憩時間にも個別に受け付けています。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD応用		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	衛藤翔平
授業の概要				
<p>建築CAD製図で身に付けた技術をベースに、さらにその他のソフトウェアを活用し、プレゼンテーション力を高める技術を習得する。プレゼンテーションボードを制作する上で、ひとつのイメージ(画)の出来栄は非常に重要。授業課題やコンペなどで高いレベルのプレゼンテーションボードが制作できるようになるためのプロセスを体験を通して学ぶ。そのためには、パソコンとソフトウェアの技術だけでなく、絵心や視覚情報伝達の技術(グラフィックデザインの基礎)も重要であり、構想力や編集力といった「考える力」を養うことに主眼を置く。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上)          ・課題の趣旨を理解し、各回の授業で指示された作業を進めることができる</p> <p>(標準目標:B評価以上)          ・課題について標準的なレベルでプロジェクトをまとめることができる</p> <p>(発展的目標:A評価)          ・課題について社会に通用するレベルでプロジェクトをまとめることができる          ・デザインを通して社会とコミュニケーションできる</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
専門雑誌やwebサイトのチェック、幅広くカルチャーや社会に興味を持ち設計・デザインへのヒントを探る習慣を持つこと				
回	テーマ	内容		
1	デジタルプレゼンテーション技術	画像のレタッチの基礎		
2		図面を魅力的に仕上げる		
3		画像合成1 添景の合成		
4		画像合成2 テクスチャーの貼り付け		
5		画像合成3 背景への合成		
6		ソフトウェア小技レクチャー		
7		総括課題		
8		↑		
9	ビジュアルデザインの基礎技術	ビジュアルデザイン1 名刺デザイン(文字の役割)		
10		ビジュアルデザイン2 ポスターのデザイン		
11		ビジュアルデザイン3 フライヤーのデザイン		
12		プレゼンテーション演習 好きを伝える		
13		↑(発表)		
14		前期総括課題 修了制作改善		
15		↑(卒業制作に向けて)		
16	卒業制作プレゼンテーション作成	毎週卒業制作のプレゼン資料を段階的に制作		
17		>上記について全体への指導、個別指導でフィードバック		
18		↑		
19		↑		
20		↑		
21		↑		
22		↑		
23		↑		
24		↑		
25		↑		
26		↑		
27		↑		
28		↑		
29		↑		
30		↑		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
-		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
卒業制作		建築学科/2年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	85回	170時間	必須	山根利之
授業の概要				
2年間の総括として自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所の経験を活かし、建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「卒業制作」	テーマ設定のための調査		
2-30	デザイン案検討	コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討		
31-35	個別中間プレゼン	設計案を説明できる概要発表		
36-84	デザイン案検討	作図、模型製作、ボード構成		
85-87	最終合同プレゼン	完成模型、作品ボード		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築設計演習2		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90	30	60時間	選択	山根利之
授業の概要				
建築の設計について、動線計画、断面計画、グリッドプラン、敷地計画などの設計の基本手法を実践的に習得するとともに、提案力と独創性を実践的に習得する。また、作品としての表現力を向上させる。建築デザイン(1年生)と合同授業。				
授業終了時の到達目標				
<p>建築設計プロセスを理解できる。さらにそれらを活かして、卒業制作へ発展させる。また、基本となる表現テクニックが身につく。</p> <p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 建築的空間の機能やコンセプトを立案することができる</li> <li>• 基本的な建築計画に沿って設計できる</li> </ul> <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 建築的空間の機能やコンセプトに基づいたデザインができる</li> <li>• 基本的な建築計画に沿った正確な図面表現によって設計できる</li> </ul> <p>(発展的目標:A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 建築的空間の機能やコンセプトをデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる</li> <li>• 正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所の経験を活かし、公共建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例収集と敷地環境調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「都市環境デザイン1」	「場所をデザインする」オープンスペース(1, 2年生混成共同設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。		
2~5	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
6	合同プレゼン 5/29	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
7	第2課題「図書館」	地域に開かれたコミュニティ図書館(1, 2年生混成共同設計) 小学校計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。		
8~12	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
13	合同プレゼン 7/17	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
14	第3課題「美術館」	周辺環境に配慮した開かれた美術館(個人設計) 美術館計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。		
15~19	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
20	合同プレゼン 11/6	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
21~25	第4課題「卒業制作」 卒制中間プレゼン 12/4	敷地設定、事例調査、資料収集、デザインテーマ・コンセプト検討。		
26	1年生プレゼン審査講評 12/11	1年第3課題の審査講評		
27~30	第4課題「卒業制作」継続			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題・レポート	100.0%	第4課題は評価に加えない。提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図2		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	選択	岡田英治
授業の概要				
建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 1年次に作図した木造住宅の構造図を作図して構造的な内容の理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
1年時に習得した能力に更に構造体も含めて建築物を理解し、作図できるようになる。 また、実際の二級建築士製図の試験の課題に対して回答を作図できるようになる。				
(基本目標:C評価以上) ・課題の内容を正しく作図できる ・手書きでエスキスやスケッチができ、考えを整理できる				
(標準目標:B評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる ・エスキスやスケッチの途中で担当教員のチェックを受けてプランを修正することができる				
(発展的目標:A評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる ・求められた条件に適合する施設を設計、提案することができる				
実務経験の有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験			
時間外に必要な学修				
課題で作図している内容を自宅に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	年間予定及び木造コース、一般構造コースの選択についての説		
2	第1課題:「木造住宅 基礎伏図」	教科書の木造2階建て住宅の基礎伏図を作図する。		
3				
4	第2課題:「木造住宅 1階床伏図」	教科書の木造2階建て住宅の1階床伏図を作図する。		
5				
6	第1回合同プレゼン	選択1の第1回合同プレゼンに出席し、視聴する。		
7	第3課題:「木造住宅 2階床伏・1階小屋伏図」	教科書の木造2階建て住宅の2階床伏・1階小屋伏図を作図する。		
8				
9	第4課題:「木造住宅 小屋伏図」	教科書の木造2階建て住宅の小屋伏図を作図する。		
10				
11	第5課題:「木造住宅 軸組図・軸組詳細図」	教科書の木造2階建て住宅の軸組図・軸組詳細図を作図する。		
12				
13	第2回合同プレゼン	選択1の第2回合同プレゼンに出席し、視聴する。		
14	第6課題:「二級建築士製図試験過去課題模擬演習ー木造2階建て住宅」	エスキース		
15		平面図		
16		立面図		
17		矩計図・面積表		
18				
19				
20				
21	第3回合同プレゼン	選択1の第3回合同プレゼンに出席し、視聴する。		
22	第6課題	全体取りまとめ、提出		
23	卒業制作	これまでに習得した製図の知識を基に卒業制作を進める。		
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式		全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図2		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	選択	岡田英治
授業の概要				
建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 1年次に作図した木造住宅にとどまらず、非木造非住宅の建物の作図を通して他構造他用途へ理解を広める。				
授業終了時の到達目標				
1年時に習得した能力に更に構造体も含めて建築物を理解し、作図できるようになる。 また、実際の二級建築士製図の試験の課題に対して回答を作図できるようになる。				
(基本目標:C評価以上) ・課題の内容を正しく作図できる ・手書きでエスキスやスケッチができ、考えを整理できる				
(標準目標:B評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる ・エスキスやスケッチの途中で担当教員のチェックを受けてプランを修正することができる				
(発展的目標:A評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる ・求められた条件に適合する施設を設計、提案することができる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験			
時間外に必要な学修				
課題で作図している内容を街の中にある施設に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	年間予定及び木造コース、非木造コースの選択についての説明		
2	第1課題:「鉄骨造コミュニティ施設 配置図・平面図」	教科書の鉄骨造2階建てコミュニティ施設の配置図、各階平面図を作図する。		
3				
4				
5				
6	第1回合同プレゼン	選択1の第1回合同プレゼンに出席し、視聴する。		
7	第2課題:「鉄骨造コミュニティ施設 断面図・立面図」	教科書の鉄骨造2階建てコミュニティ施設の断面図、立面図を作図する。		
8				
9				
10	第3課題:「RC造(ラーメン)住宅 矩計図」	教科書のRC造(ラーメン)2階建て住宅の矩計図を作図する。		
11				
12				
13	第2回合同プレゼン	選択1の第2回合同プレゼンに出席し、視聴する。		
14	第6課題:「二級建築士製図試験過去課題模擬演習-RC造コミュニティ施設」	エスキース		
15		平面図		
16		立面図		
17		断面図		
18		面積表・仕上表等		
19				
20				
21	第3回合同プレゼン	選択1の第3回合同プレゼンに出席し、視聴する。		
22	第6課題	全体取りまとめ、提出		
23	卒業制作	これまでに習得した製図の知識を基に卒業制作を進める。		
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式		全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
照明デザイン I		建築学科/2年	2024年度/前期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	選択	重川隆一

授業の概要

照明器具の基礎となる光源と照明器具の特性について学び、主には実習を通して光の原理や現象あるいは海外のあかり文化を体験し、そこから照明効果への応用について理解を深めていく。

授業終了時の到達目標

照明の基礎とそれに関わる電気の安全知識について習得する。また、実習を通して光の効果を予測することを学び、空間認知を前提とした照明計画技術の基礎を習得する。後半の実習では様々なプロダクトの制作を通じて、楽しみや喜びに変わる光の体験によって光への興味をより深めることを到達目標としている。

実務経験有無

実務経験内容

有

照明メーカーに10年間勤務し、照明器具設計と照明デザイン業務に携わる。その後、照明デザインの会社を設立し、現在ではプロダクト開発まで手がけている。多岐にわたる実績から生まれた、光を楽しむという経験から照明を学ぶプログラムを実践している。

時間外に必要な学修

授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。  
また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。

回	テーマ	内容
1	光のガイダンス I	照明に関わる様々な仕事について紹介
2	光のガイダンス II	人類の進化とあかりの歴史について紹介 基本光源である太陽について考察する
3	照明に必要な電気の基礎知識	電気の基礎用語についての説明
4	手作り照明(ハウスランプの製作)ガイダンス	白熱電球の点灯回路の説明 照明器具と電気用品安全法について説明
5	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する
6	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する
7	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する
8	住宅の照明計画ガイダンス	住宅照明におけるエリアごとの注意点を説明 照明カタログの基本的な使い方を説明
9	住宅照明計画	空間認知による照明計画
10	住宅照明計画	空間認知による照明計画
11	住宅照明計画	空間認知による照明計画
12	インテリア・ハーバリウムで光の屈折率を学ぶ	空気の屈折率と液体(水やオイル)の屈折率の違いによっておこる現象を実際に体験し、照明器具への応用について理解を深める
13	あかりと香り	あかりと香りのヒーリング効果について アロマオイルの試香
14	照明制御 実習	一般照明と演出照明の照明制御について学ぶ。 演出照明プログラムについて実機操作によってカラーミキシングを体験する。
15	手作り照明及び住宅照明計画の課題統括	提出された課題を個々に紹介し、高評価点や改善点を説明する
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材

評価基準

評価率

その他

提出課題 2種類 手作り照明及び住宅照明プラン 最重要評価基準 提出期限の厳守	各50%	【準備学習】 授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常に準備しておくこと。
-----------------------------------------------	------	-------------------------------------------------------------------------

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
照明デザイン2		建築学科/2年	2024年/後期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	11回	22時間	選択	小田綾子

授業の概要

照明デザインという極めて専門的な分野を実務レベルで実践できる力を養う。光とは何か?からRGBを使った実験などを通じ自然光を知ることによって人工光を考察する。生活における光の役割、建築と光の関係を説き、空間にふさわしい独創的な照明計画ができる技術を身につける。1プロジェクトの照明計画を段階的に授業を通して仕上げる。JW-CADを使った配線図作成、照度計算ソフト(Dialux EVO)による3Dシミュレーション、言葉の構築などプレゼンテーションに必要な表現のスキルを習練する。

授業終了時の到達目標

(基本目標:C評価以上)

- ・照明計画の基本プロセスが理解できる。
- ・図面にラフプランが描ける。
- ・考えを照明計画に反映させることができる。

(標準目標:B評価以上)

- ・条件を整理し標準的な照明計画ができる。
- ・導線を考慮したスイッチ配線計画をJW-CADを使って作成できる。
- ・3D照度計算ソフト(Dialux)により、シミュレーションと検証ができる。
- ・第三者とイメージが共有できるプレゼン資料(配置図・配線図・CG)の制作ができる。

(発展的目標:A評価)

- ・コンセプトと計画の整合があり、方向性が明確に伝わる。
- ・クライアントの想像を超える先進的で提案型の照明計画ができる。
- ・第三者を魅了するプレゼンテーションができる。
- ・言葉をつかった光の表現が独創的かつ繊細で表現力に富んでいる。

実務経験有無

実務経験内容

有

照明デザイン事務所での一連の設計業務・照明器具の企画製作・現場監理

時間外に必要な学修

授業の復習 遅れがでたところの自習 日常で出会う照明の考察

回	テーマ	内容
1	授業のアウトライン 光とは?	授業の到達点、身に付くスキル、光とは、光遊び (ミニテスト1)
2	照明器具という道具を知る	器具に触れ光の効果を見る、配光データの読み方、照度計算、照明用語
3	ダウンライト・ブラケット・スポットライトの攻略法	ダウンライトとスポットライトで使う明かりと魅せる明かりをつくる
4	建築化照明を使い分ける	コーブ・コーニス・バランス、きれいな収め方、適光適所の法則
5	光のコンセプトを表現する・1~4回の復習	手法を言語化するレッスン、照明計画のための事例と実施(ミニテスト2)
6	学外授	企業の最新アップデート型オフィス環境を視察(中町)
7	プロジェクトの照明計画 テーマ発表	配線図のためのラフプラン (課題1)
8	プロジェクトの照明計画 プランニング	配線図 (課題2)、器具選び
9	プロジェクトの照明計画 表現の技術	3D照明計算ソフト/Dialux EVO活用術
10	プロジェクトの照明計画 表現の技術	3D照明計算ソフト/Dialux EVO活用術
11	プロジェクトの照明計画 プレゼンテーション	伝わるプレゼンテーション 総括(課題3)
12		
13		
14		
15		

教科書・教材

評価基準

評価率

その他

- ・メーカーの照明カタログ(DAIKO)
- ・課題の図面資料

ミニテスト1 5%  
ミニテスト2 20%  
課題1 15%  
課題2 20%  
課題3 40%

100.0%

クラスルームを活用し、授業の案内や補足をしたり質問も受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
設計実務演習		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	上田一喜
授業の概要				
<p>擬似的な設計事務所の環境で実務プロセスについて体験的に学ぶ。アイデアコンペ, 実施コンペ, 外部からのデザイン依頼, 実際の設計事務所プロジェクトの連携など, 随時実情に合わせたスケジュールで並行的に進捗していくプロジェクトを個人やチームで分担し進めていく。毎週次回までの作業が課され, それを元に毎週レビューを行い, 軌道修正の指示を受けて改善しまとめていくプロセスを繰り返す, 設計事務所が必要とされる実務スキルを習得する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上)          ・与えられた担当課題の趣旨を理解し, スケジュールに沿って作業を進めることができる</p> <p>(標準目標:B評価以上)          ・与えられた担当課題について標準的なレベルでプロジェクトをまとめることができる</p> <p>(発展的目標:A評価)          ・与えられた担当課題について社会に通用するレベルでプロジェクトをまとめることができる          ・デザインを通して社会とコミュニケーションできる</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計業務全般と支援を通してコンペ受賞, 雑誌掲載, メディア掲載等			
時間外に必要な学修				
専門雑誌やwebサイトのチェック. 幅広くカルチャーや社会に興味を持ち設計・デザインへのヒントを探る習慣を持つこと				
回	テーマ	内容		
1	産学や他プロジェクトに対応	毎回プロジェクトの進捗に合わせて以下のサイクルで体験的に学ぶ		
2		・プロジェクトのアサイン		
3		・デザインレビュー(毎週)		
4		・プロジェクトミーティング		
5		・プレゼンテーション, 引き渡し等		
6		↑		
7		↑		
8		↑		
9		↑		
10		↑		
11		↑		
12		↑		
13		↑		
14		↑		
15		↑		
16		↑		
17		↑		
18		↑		
19		↑		
20		↑		
21		↑		
22		↑		
23		↑		
24		↑		
25		↑		
26		↑		
27		↑		
28		↑		
29		↑		
30		↑		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
-		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する□	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
住宅デザイン		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	藤山信博

授業の概要

住宅空間の考え方の基礎を学び、漠然とした「空間」というものを自分のコンセプト通りに操作できるようにする。また各課題を通して図面の描き方の基本事項を1年次より引き継ぎ、手描きにて具現化する。  
教科書「建築鑑賞入門」を参考として、デザインの考え方を教授する。

授業終了時の到達目標

住宅をデザインする上で、学生自らの考案または創造した形態を、誤解なく第三者に伝えるための図面の描き方を修得する。  
 ・(A評価) 第三者を魅了するコンセプトの提案、および模範的な図面を手描きでできる。  
 ・(B評価) コンセプトを図面に反映させることができる。平均的な図面を手描きでできる。  
 ・(C評価) エスキス、基本図面(三面図、平面図、立面図、断面図)を手描きでできる。

実務経験有無 実務経験内容

有 藤山建築デザイン事務所主催。設計、監理業務に関する一連の実務経験

時間外に必要な学修

次回授業範囲の教科書を予習する。  
授業でのアドバイスを家庭学習として作業をすすめておくこと。

回	テーマ	内容
1	実習課題1(デスク三面図トレース)	授業内容、評価方法の説明。基本図面の描き方の解説。 家具図面(三面図)のトレース
2-5	実習課題2(自分の部屋にあったらいい家具)	コンセプトの考え方、エスキス方法の解説。 アイソメの描き方
6-15	実習課題3(マンションリノベーション)	Beforeマンションの図面と実際の内観スライドを確認しながら、リノベーションアイデアをまとめる。 図面を正しく読み解く力を養う。 展開図、照明・電気図の描き方
16-26	実習課題4(住宅設計)	法規、構造等を考慮した、正確な図面を作成する。 コンセプトからプランを導き出す。 プレゼンにて自分の考えを表現する。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
建築鑑賞入門(鹿島出版会)【貸与】 製図道具一式(平行定規含む)	課題と提出状況および積極的参加度。 全課題を提出とし、その内容や提出期限を考慮して総合的に評価する。	100%	時間が必要な質問がある場合はメールにて予約を取ることを。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間デザイン		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	岩竹俊範
授業の概要				
①自分に出会う。②形・マテリアルに出会う。知る。③マテリアルからイメージする。④深くリサーチする。深堀する。⑤伝える力を身に付けていく。⑥展開していく。 段階的に思考を深めて、毎週アウトプットしていくことで、理解を深めていく。実際活躍している特別講師を招いて課題を行うことも想定。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C評価以上) ・課題を提出することができる。				
(標準目標:B評価以上) ・条件を整理し標準的なアウトプットができる ・第三者に伝えるうえで必要十分なプレゼン資料を制作できる				
(発展的目標:A評価) ・コンセプト・提案性を持つ空間設計・デザインを考えられる ・他の学生に対し指標となる制作プロセスを授業中のデザインレビュー等で公開することができる ・第三者を魅了するプレゼン資料を制作できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		ure主催。設計、監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。日常生活の中で意識して生活をする。				
回	テーマ	内容		
1	①自分に出会う。	デザインをする前に自分のことををしる、伝える。		
2	同上	同上		
3	②形・マテリアルに出会う。知る。	空間、プロダクトはいろんなマテリアル、カラーで構成されていること。自分が選ぶ素材の特性を理解する。		
4	同上	同上		
5	同上	同上		
6	同上	同上		
7	③マテリアルからイメージする。	マテリアルからイメージして形を作るスタディをする。		
8	同上	同上		
9	同上	同上		
10	同上	同上		
11	同上	同上		
12	④深くリサーチする。深堀する。	様々な物事を理解して、深く知ること。デザインする始まりを考える。		
13	同上	同上		
14	同上	同上		
15	同上	同上		
16	同上	同上		
17	⑤伝える力を身に付けていく。	自分で考えたことを誰かに提案するスタディを行う。		
18	同上	同上		
19	同上	同上		
20	同上	同上		
21	同上	同上		
22	⑥展開していく。	①～④の内容を踏まえて課題に取り組む。		
23	同上	同上		
24	同上	同上		
25	同上	同上		
26	同上 2024年最終授業	同上		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題の提出、 取り組みの姿勢 授業での発表を総合的に判断して評価する。	100.0%	授業中に質問、確認の時間をとるように進行します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
インテリア研究		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	實藤優子
授業の概要				
インテリアに関するテーマをそれぞれが設定し、それに関する研究と発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
<p>インテリアに関する専門知識を身に付ける。インテリア全般関すること、または、分野を絞った専門性の高い内容を設定し、研究を進める。卒業制作の題材設定の参考になる資料の作成も行う。</p> <p>(基本目標: C以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自身の興味のある分野を決め、資料を集めることができる。</li> </ul> <p>(標準目標: B以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分野を定め、資料を読み解き、まとめることができる。</li> <li>校外調査の内容をわかりやすくまとめることができる。</li> </ul> <p>(発展的目標: A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ設定後、資料の読解、事例研究、校外調査を一貫して行いわかりやすい資料にまとめ発表することができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		設計事務所にてインテリアデザイナーとしての経験。		
時間外に必要な学修				
興味がある分野を明確にし、何故興味があるのかを他者に説明できるようにしておく。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業の進め方について 資料の集め方 web活用の方法		
2	ディスカッション テーマ設定	想定される分野や興味のある分野について意見を交換する それぞれの研究テーマを決定する		
3~5	研究①	研究計画作成 資料収集		
6	調査①	校外調査(広島市近郊)		
7~11	研究②	資料収集 意見交換		
12	調査②	校外調査(広島市近郊)		
13・14	研究③	資料の読解、事例研究 意見交換		
15	中間発表	各自発表		
16	前期の研究内容確認と後期計画立案	前期内容を振り返り、後期の予定を立案する		
17・18	研究④	資料収集、資料の読解、事例研究 意見交換		
19	調査③	校外調査(広島市近郊)		
20・21	研究⑤	資料収集、資料の読解、事例研究、発表準備 意見交換		
22	調査④	校外調査(広島市近郊)		
23	最終発表準備	発表用資料作成		
24	プレ最終発表	各自発表後、意見交換、発表内容修正		
25	最終発表準備	プレ最終発表を受けて各自修正		
26	最終発表・まとめ	各自発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特になし 必要資料は各自で集めること		発表 作成資料	60% 40%	